

オマーン石油精製・石油産業会社との 「製油所の運転及びメンテナンス技術に関する 共同事業(オマーン)」-協定書調印式を開催

JCCPは、オマーン石油精製・石油産業会社(Orpic: Oman Oil Refineries and Petroleum Industries Company)と、平成27年6月14日(日)、Orpic本社にて「製油所の運転及びメンテナンス技術に関する共同事業」に関して、在オマーン日本国大使館 村林参事官ご列席の下、OrpicレーネンCOOおよびJCCP平岡英治参与(特命担当(当時))による協定書(MOA:Memorandum of Agreement)調印式を開催致しました。調印式には日本側の参加会社であるコスモ石油株式会社を代表して、海外技術協力センターの宇田川センター長が出席され、Orpic関係者等、約20名が参加しました。

JCCPは、これまでOrpicのミナ・アル・ファハール(以下、MAF)製油所への技術支援を実施してきましたが、今回の協定書締結により、同国最大規模のソハール製油所の運転改善を中心とした技術協力に着手することになります。本事業は、Orpicと共同で2015年6月から2018年3月まで実施が計画されており、常圧蒸留装置、アロマ製造装置、海水淡水化装置等において発生している不具合への対処について技術支援を行い、これにより同製油所の運転効率の改善が期待されます。

レーネンCOOはスピーチの中で「OrpicはJCCPと過去10年以上にわたって共同事業を継続的に実施してきたが、今回の事業開始により両者の関係はさらに強化された。今回のMOAへの調印は、両国間の石油産業の国際協力というゴールを目指すための契機となる。今後の技術と人材の交流に期待したい」と述べました。

オマーンは、1982年に首都マスカットに国内最初の製油所であるMAF製油所を建設し、国内需要分の原油処理を開始しました。その後、石油製品及び石油化学品の輸出を目的として、2006年にソハールにソハール製油所を核とした石油コンビナートを建設し、以来同国における主力製油所としての役割を果たしてきました。JCCPでは、これまで2003年から2014年までの12年間、MAF製油所において運転改善を主とした共同事業を継続して実施し、EURO5に対応した品質改善策の提言指導や常圧蒸留装置の処理能力アップ等の様々なテーマについて貢献をしてまいりました。

本事業がOrpicの石油精製事業の改善の一助となり、さらにはオマーンと日本の友好関係強化に貢献することを期待しております。

(技術協力部 野中 修)



調印するOrpicレーネンCOO(右)、
平岡参与(特命担当(当時))(左)、村林参事官



調印式後の集合写真